



しらやま

白山小学校だより No.46

令和3年3月22日



夢をあきらめない

3月17(水)に、本校の第111回卒業証書授与式が、厳粛に行われました。卒業証書を受け取る6年生の皆さんの顔は晴れやかで、頼もしさを感じました。白山小学校の卒業生としての自信と誇りを持って、中学校でも活躍してくれることを期待します。



卒業文集を読ませていただき、皆さんには今、将来の夢や目標があると知って、とてもうれしく思っています。夢や目標は人間にとって生きる力の源になります。つまり、夢や目標を持っていると、充実した毎日を過ごすことができる、ということです。

皆さんもよく知っている、男子フィギュアスケート選手の羽生結弦さんは、2つのオリンピックで、連続で金メダルを獲得した、すごい選手です。私は、羽生さんが他のどの選手よりもたくさん練習して頑張ったから、こんな素晴らしい結果を残せたのだろうなと思っていたのですが、実は、羽生さんは努力についてこんなことを話していました。

「努力はうそをつく。でも無駄にはならない。」

「努力はうそをつく」とは、努力して一番長く練習したからといって優勝できるわけではない、という意味だそうです。ところが「無駄にはならない」とも言っています。どういうことでしょうか。

羽生さんは今、前人未踏の4回転半ジャンプを成功させようとしていて、昨年のインタビューでは「世の中の状況を見ながら、最大限の努力をしていきます」と話していました。必ずできるとは限らないのに、羽生さんが努力をやめないのはなぜか。それは、努力することそのものを楽しんでいるからだ、私は思います。

皆さんにも経験があると思いますが、努力したからこそ分かることがあります。例えば、目標を達成するために何をどのくらい頑張ればいいのかは、実際にやってみなければ分からないし、地道な努力を積み重ねていく途中で、次の目標や新しい目標が見つかることもあります。だから、努力は決して無駄にはならないのです。

また、千円札の肖像画にもなっている野口英世博士は「だれよりも3倍、4倍、5倍勉強する者、それが天才だ」と言いました。どうして天才と呼ばれる人は3倍も4倍も5倍も勉強することができるのか。それは、たぶん勉強が大好きだからです。そして、同じく天才と呼ばれている羽生さんはスケートが大好きだから、一生懸命努力をしているに違いありません。好きなことを夢や目標にすれば、どんな努力だってできるし、頑張ることそのものがとっても楽しいことになります。ですから、私は、野口博士の言葉は「誰よりも3倍、4倍、5倍好きなことに夢中になれる人、それが天才だ」と言い換えてもいいと思っています。

広い世界にはいろいろな人がいて、皆さんが誰よりも得意だと思っていたことを、もっと上手にできる人に出会うことがあるかもしれません。頑張っているのに追いつくことができないと焦ってしまうことがあるかもしれないし、もう諦めようかなと思ってしまうこともあるかもしれません。

では、1つの夢や目標が叶わなければすべてがダメなのでしょうか。決してそうではありません。たとえ実現できなくても、真剣に努力した人は、必ず大きく成長しています。そして、その経験があるからこそ、他のさまざまな可能性を試して頑張ることができるし、その頑張りの先には必ず新たな夢が待っています。

今のやり方ではできない。でも、方法を変えればできるかもしれません。

今はできない。でも、明日はできるかもしれません。

一人ではできない。でも、誰かとならばできるかもしれません。

「できるようにするためにはどうすればいいのか」を考えれば、ピンチだってチャンスに変わります。

皆さんには、ぜひ好きなことを夢や目標にして、これからの毎日を楽しく、充実したものにしてほしいと心から願っています。
(式辞からの抜粋)

明後日をもちまして、令和2年度の教育活動をすべて終了することとなりました。そして、この学校だより「しらやま」も第46号で最終となります。コロナ禍ではありましたが、こうして1年間、最後まで発行できましたのも、皆様の温かいご支援とご協力のおかげだと深く感謝いたします。私ごとになりますが、校長の私も今年度で退職となりました。保護者の皆さんをはじめ多く地域の方々に支えられ勤務できましたことを誇りに思います。本当にありがとうございました。
越前市白山小学校長 北川 喜教